

活 用 事 例	京都市立桃陽総合支援学校	大杉仁彦教諭
担当：野田春菜、教諭、幸田弥生教諭		
活用事例タイトル	リモートコンサートホールを使った合奏	
対象授業科目/活動	音楽	
授業または活動の概要(目的、実施時期、授業の場合教科名や単元名、対象学年、参加人数、ICTの使用局面など)	<p>○目的：本校と分教室で合奏を行う。</p> <p>○実施時期：1月中旬～2月中旬</p> <p>○教科名：音楽</p> <p>○単元名：「本校と分教室（府立医大）を結んで、楽しくアンサンブルをしよう。」</p> <p>○教材：パッフェルベル作曲「カノン」</p> <p>○使用楽器：リコーダー（ソプラノ・アルト）、ドラム、ピアノ、キーボード、オルガン、ハンドベル、木琴、鉄琴、MIDI、コンガ]</p> <p>○単元の目標：それぞれの楽器の特徴を理解し、音楽表現をするための技能を身に付ける。声部の重なり方の特徴を生かしてアンサンブルを工夫する。</p> <p>○対象学年：中学部1・2年生</p> <p>○参加人数：本校16名、分教室1名</p> <p>○ICTの使用局面：</p> <p style="padding-left: 20px;">一斉学習：電子黒板（TV会議システム）、TPC（コラボノート）</p> <p style="padding-left: 40px;">リモートコンサートホール</p> <p style="padding-left: 20px;">個別学習：電子黒板</p> <p>協働学習：電子黒板（TV会議システム）、リモートコンサートホール</p>	
ICT活用により期待できる効果 ICT活用のねらい	音の時間差を縮めるための『リモート・コンサート・ホール』を開発し、TV会議システムと併用することにより、本校・分教室間といった遠隔地同士での音楽授業を可能とする。分教室では、同年代の友人が少ないため、合奏や合唱などの活動を行うことが難しい。そこで、本校と繋いで合同授業を行うことで、同年代の友人たちと授業を受け、一斉学習・協働学習等で教え合ったり、共に考えるという活動を行うことができる。	
評価、振り返り（活動の評判や児童・生徒の声など）	<p>本時の評価</p> <p>（1）楽しんでアンサンブルに取り組むことができる。</p> <p>（2）自分たちの演奏を聴いて、音色の美しさやハーモニーを感じることができる。</p>	
その他 (関連WEBサイト等ありましたらご記入ください。)	<p>文部科学省「学びのイノベーション事業」、総務省「フューチャースクール推進事業」</p> <p><a href="http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/toyo-y/future_school/index.html">http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/toyo-y/future_school/index.html</a></p>	

## 音楽科 授業デザイン

日	時：平成 25 年 2 月 15 日（金） 第 5 校時（13 時 15 分～14 時 05 分）		
学	年： 本校 中学部	1・2 年	府立分教室 1 年
授 業 者：	野田春菜	幸田弥生	
授 業 場 所：	本校 音楽室	府立分教室	

児童生徒の障害	
■病弱	（ 16 名：内 発達障害 6 名 ）
■病弱・知的	重複障害（ 1 名 ）
□病弱・肢体不自由	重複障害（ 0 名 ）

### 1. 単元（題材）名

「本校と分教室（府立医大）を結んで、楽しくアンサンブルをしよう。」

教材：パッフェルベル作曲「カノン」

〔使用楽器：リコーダー（ソプラノ・アルト），ドラム，ピアノ，キーボード，オルガン，ハンドベル，木琴，鉄琴，MIDI，コンガ〕

### 2. 単元（題材）の目標

- ・それぞれの楽器の特徴を理解し、音楽表現をするための技能を身に付ける。
- ・声部の重なり方の特徴を生かしてアンサンブルを工夫する。

### 3. 単元（題材）の指導計画

指導計画（全 6 時間）

時	主な学習活動・内容	主な使用機器
第 1 時	・ CD により曲の概要をつかむ ・ 楽譜を読み取り演奏法を知る	IWB
第 2 時	・ 担当楽器の奏法等を知る ・ 各自練習に入り表現活動をする	IWB
第 3 時	・ リズムを理解し練習する ・ 音程やリズムに気をつけて正確に演奏する	RCH・IWB・MIDI・TPC
第 4 時	・ 主旋律を支える和声と同格に主張する多声的な旋律を意識して練習する	RCH・IWB・MIDI・TPC
第 5 時	・ 他のパートを意識して演奏する ・ 美しい音色で演奏する技術を身に付ける	RCH・IWB・MIDI・TPC
第 6 時	・ 全体の流れを意識してアンサンブルする（本時 6 / 6）	RCH・IWB・MIDI・TPC

### 4. 本時の目標

- (1) 曲の雰囲気を感じ取って楽しくアンサンブルをする。
- (2) 各フレーズの特徴や役割を感じ取りながら、一体感のあるアンサンブルをする。

## 5. 本時の情報通信技術 (ICT) 活用

活用する場面	導入 展開 まとめ
活用する者〔目的〕	・生徒〔協働学習〕・指導者〔資料提示, 演奏の記録〕
活用するコンテンツ	楽譜 TV会議システム
活用する機器	RCH (リモート・コンサート・ホール) ・IWB (電子黒板) MIDI (電子楽器) ・TPC (タブレットパソコン)

## 6. 本時の展開

	学 習 活 動	活用機器 (活用者)	指導上の留意点・支援内容 【ICTによる支援】
導 入	<b>一斉学習</b> ①挨拶をする。(府立医大の生徒が登校したらもう一度挨拶をする。) ②本時の目標を確認する。 ③コラボノートの個人枠内に自分の目標を具体的に記入する。	IWB TPC (生徒) RCH	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カメラに向かって挨拶をする。</li> <li>・本時の目標をホワイトボードに掲示する。 『お互いの音を聴き合いながら合奏をしよう。』</li> <li>・全員分の目標を発表する。</li> </ul>
	<b>個別学習</b> ④個人練習を行う。(府立医大の生徒もコラボノートに目標を記入する。) ⑤パート練習を行う。表現を工夫し、美しい音色で演奏できるように同じ楽器のグループで練習する。	IWB	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のパートの確認ができるように、指導者が机間指導する。</li> <li>・どんなところを注意して演奏するかポイントを板書する。 『きれいな音色で演奏する』, 『ハーモニーを意識する』等</li> </ul>
	<b>協働学習</b> ⑥他の楽器の音や, RCH のつないだ音を意識して本校と府立を繋ぎ合奏する。 ⑦録音した演奏を聴く。 ⑧合奏した感想を発表する。指導者からの講評を聞く。	IMB RCH TPC (指導者)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の演奏を TPC で録音しておく。</li> <li>・数名に感想を聞く。</li> <li>・楽器の特徴を伝えることで, 感想を述べやすく, 支援する。</li> <li>・変化したことを指導者が具体的に述べる。</li> </ul>
ま と め	<b>一斉学習</b> ⑨全員で合奏をする。 ⑩挨拶をする。	IMB RCH	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カメラに向かって挨拶をする。</li> </ul>

## 7. 本時の評価 (評価の観点・観点別の評価を含む)

- (1) 楽しんでアンサンブルに取り組むことができる。
- (2) 自分たちの演奏を聴いて, 音色の美しさやハーモニーを感じるができる。

## 8. 準備物 IWB, TPC, RCH